



平成 28 年度

事業報告書

一般社団法人 北海道軽種馬振興公社

平成28年度事業報告（平成28年4月1日から平成29年3月31日）

当社は、ホッカイドウ競馬を継続かつ安定的に運営し平成28年3月に北海道が策定した第2期「北海道競馬推進プラン」を着実に推進するため、「北海道競馬の実施に関する業務」の委託を受け、馬産地の豊富な馬資源と屋内調教用坂路など競馬場施設の効率的利用を基本とし競馬事業の運営にあたった。

1. 公社運営に関する会議等

(1) 総会

ア 第40回通常総会

平成28年6月27日

- ・平成27年度事業報告
- ・貸借対照表及び損益計算書、公益目的支出計画実施報告書について

(2) 理事会

ア 平成28年第1回理事会

平成28年6月10日

- ・平成27年度事業報告
- ・貸借対照表及び損益計算書、公益目的支出計画実施報告書について
- ・第40回通常総会の開催について

イ 平成28年度第2回理事会

平成28年9月21日

- ・平成28年度ホッカイドウ競馬開催状況について

ウ 平成28年度第3回理事会

平成28年11月24日

- ・平成28年度ホッカイドウ競馬開催結果について
- ・平成29年度ホッカイドウ競馬開催日程（案）について
- ・規則の一部改正について

エ 平成28年度第4回理事会

平成29年3月29日

- ・事業運営の基本方針
- ・平成29年度事業計画案及び収支予算案
- ・組織改正について

(3) 監査

監事監査

平成28年5月30日

- ・平成27年度事業報告並びに収支決算に係る監査

2. 北海道競馬実施事業

(1) 競馬事業費について

公社が道から委託及び補助を受け事業を行った。

(2) 開催日程について

平成28年度のホッカイドウ競馬は、全日程を門別競馬場グランシャリオナイターとして開催し、濃霧などの影響により10競走取り止めとなったが、南関東や他地区との相互発売、インターネット、電話投票などによる発売拡大に努め、発売額は203億55百万円で、前年比：120.4%、計画比：117.6%という結果となった。

(15開催80日間 4月20日から11月10日)

また、非開催日においても、地方競馬(南関東・ばんえい競馬等)やJRAといった他主催者の場外発売により収益確保に努めた。

※6月29日・8月3日の2日間で計6競走濃霧のため、8月17日は9競走以降の計4競走を強風のため競走取止め

(3) 施設・設備の運用について

平成27年度から運用を開始した内回りコースに照明施設を増設し、1,500mと1,600mの競走距離でのナイター施行が可能となった。

また、映像センター移転に伴い、映像機器のHD化を図り視認性の向上を図った。

- ・ナイター照明LED化、内回りコースへのLED照明の増設
- ・電算センター移転と映像機器のHD化により視認性の高い映像提供

(4) 報償費について

優良な3歳馬資源確保のため、3歳条件馬の賞金交付率の変更や出走手当の増額に加え、新たに3歳三冠賞を創設するとともに、3歳転入促進策として輸送費補助を行った。

また、2歳条件クラスの1着本賞金の増額や3歳以上C4クラスの賞金交付率の見直し及び重賞競走出走手当を8万円から10万円に増額した。

きゅう務員手当については、きゅう務員の確保を図る観点から500円増額した。

なお、(一社)ジャパンプリーダーズカップ協会(以下「JBC協会」という。)などから1着報償金などの支援を頂き魅力ある競馬番組の提供に努めた。

(5) 発売拡大の取り組み

門別競馬場が主场化となって8年目を迎える今年度は、主要イベントのテーマを明確化、効果的な集客を図るイベントを実施、また、道外発売については、馬柱等の情報提供の拡充を図りながら、南関東との連携強化はもとより、東海地域をはじめ、他地域での発売拡大にも取り組むとともに、既存の電話投票やインターネット、JRA即パットにより発売拡大に努めた。

さらには、場外発売所において引き続きJRA発売を実施し、収益確保とJRAファンの取り込みに努めた。

ア 集客イベント

主要イベントのテーマを明確化、幅広い層のファンに楽しんでもいただけるよう各種イベントを実施した。

主なイベントとして

- ・開幕サンクスデー（４月２０日）
- ・春のケイバまつり（５月３日～４日）
- ・シュエット・ジュマン・フェスティバル（８月９日～１１日）
- ・秋のケイバまつり（９月２２日・２３日）
- ・馬の文化祭（１１月３日）
- ・２０１６ホッカイドウ競馬ファン感謝DAY（１１月１０日）

イ 他主催者との連携強化による相互発売

南関東（大井・川崎）とホッカイドウ競馬の相互発売拡大を図る目的から、実施されている川崎競馬場における全レース発売や、大井・船橋競馬場ナイター３レース発売を実施するとともに、浦和の昼間３レース発売の拡大に努めた。

ウ 電話・インターネット投票

情報提供の拡充などを積極的に推進し、好調に推移しているインターネット投票による発売拡大に努めた。特に、JRAネット投票の発売については６３日間（昨年実績６０日間）実施した。

エ 全国発売競走

全国重賞シリーズであるグランダム・ジャパン、ダービーWeek、スーパースプリント競走、未来優駿などのシリーズ競走に参画し、全国発売による発売拡大を図った。

オ JRA 発売

ホッカイドウ競馬の場外発売所におけるJRA全レースを発売（Aiba札幌中央はメインレースのみ）（１０６日間：昨年１０８日間）するとともに、昨年引き続きG1競走の前売り発売をすることにより更なる収益確保に努めた。

(6) 競馬番組について

競馬番組は、競馬事業の根幹部分であることから、ファンに魅力ある競走を提供していくことが重要である。

ホッカイドウ競馬は他の地方競馬とは異なり、２歳馬戦が競走の約４割を占め、その翌年には全国の競馬場へ多くの活躍馬を輩出し、全国の競馬ファン等から注目されている中で、本年度は昨年新設した内回りコースにナイター照明を整備したことにより１，５００ｍと１，６００ｍの競走をナイターで実施することが可能となったことから、昼夜を問わずスプリント、マイル、中距離のバリエーション豊かな競走距離を編成することにより競馬番組の充実を図った。

また、年間を通じた２歳馬の概定番組を発表することにより、馬主及び調教師等の関係者が出走させやすい環境を整えるとともに、競馬ファンが注目する興味ある競馬番組づくりに努めた。

ア JRA 認定競走

JRA 協力金のもと、全国最多の 112 競走を実施した。

- ・重賞競走等 9 競走
- ・ウィナーズ 14 競走
- ・フレッシュ 54 競走
- ・アタック 35 競走

イ JBC 協会協賛 スタリオンシリーズ競走

ホッカイドウ競馬の特色ある競走として定着し、全国から注目されているスタリオンシリーズ競走を、JBC 協会のご支援のもと全 45 競走実施した。

- ・重賞競走 23 競走
- ・特別競走（3 歳以上） 7 競走
- ・スタリオンプレミアムシリーズ競走 15 競走

ウ JBC 協会協賛「きゅう舎スタッフ特別賞」

きゅう舎関係者の技術向上と意欲の向上を図るため、JBC 協会のご支援のもと重賞競走及び 3 歳条件競走で優勝したきゅう舎に特別賞を交付する JBC 協会協賛「きゅう舎スタッフ特別賞」を贈呈した。

- ・対象競走
 - 2 歳重賞競走 9 競走
 - 3 歳重賞競走 3 競走
 - 3 歳条件競走 24 競走
- ・交付金
 - 重賞競走 10 万円
 - 3 歳条件競走 5 万円

エ 公益社団法人日本軽種馬協会による副賞贈呈事業

牝馬の所有意欲の継続と牝馬限定競走の維持拡大による軽種馬生産経営安定化に資する観点から、日本軽種馬協会の支援のもと実施する「牝馬限定競走勝馬馬主への副賞贈呈事業」について全 51 競走を実施した。

オ 平成 28 年度 2 歳優良馬導入促進事業の実施

良質な 2 歳馬の地方競馬への早期入厩促進を図ることを目的に、地方競馬全国協会が実施する事業を活用し、2 歳限定競走（JRA 認定競走を除く）において付加賞金を 1 着馬から 3 着馬までの馬主に贈呈した。

- ・付加賞金（進上金、番組賞金加算対象外）
 - 1 着 50 万円, 2 着 10 万円, 3 着 7.5 万円
- ・実施競走数 43 競走

カ 地方競馬全国協会シリーズ競走への参加

・スーパースプリントシリーズ

短距離競走をシリーズ化して実施する「スーパースプリントシリーズ」参加。

- ・対象競走 グランシャリオ門別スプリント（タートル賞） 1着本賞金250万円
実施日 6月23日（木）距離1,000m

・グランダム・ジャパン

牝馬重賞競走をシリーズ化して実施する「全国牝馬重賞シリーズグランダム・ジャパン」に参加。

- ・対象競走「ノースウインドカップ（キングスベスト賞）」 1着本賞金300万円
実施日 7月21日（木）距離1,800m
- ・対象競走「フリーゲースポールトカップ」 1着本賞金2,500万円
実施日 8月11日（木）距離2,000m
- ・対象競走「エーテルワイス賞」 1着本賞金2,000万円
実施日 10月13日（木）距離1,200m

・ダービーWeek

ジャパンダートダービーに向けた地方競馬の3歳重賞体系整備を目的とし、全国6カ所で実施されるダービーWeekシリーズに参加。

- ・対象競走 「北海優駿 H1（エイソフラッシュ賞）」 1着本賞金500万円
実施日 5月31日（火）距離2,000m

・未来優駿 2016

兵庫ジュニアグランプリや全日本2歳優駿に向けた2歳重賞体系整備を目的に設定され、全国7カ所で実施される「未来優駿」に参加。

- ・対象競走 「サポロクラシックカップ H2（ハイ賞）」 1着賞金300万円
実施日 10月19日（水）距離1,200m

(7) ファンサービスについて

門別競馬場が主场化・ナイター開催となって8年目を迎え、これまでの取り組みを踏まえ、インターネット及びスポーツ新聞を利用した情報提供など道内外ファンへの情報提供の充実や、来場者に対するホスピタリティの高いファンサービスの提供などにより、更なるファン拡大と発売促進に努めた。

ア ポイントカードUmacaの充実

来場ポイントカードUmacaポイント付与方法や賞品を充実させ、また、キャンペーンの概要を広く告知することで来場の促進と充実したファンサービスの提供を図った。（カード会員数2,500人強、賞金総額100万円）

イ リーディングジョッキーボードの設置

門別競馬場に訪れる来場者に対して、リアルタイムで現在のジョッキーの順位や勝利数が分かるリーディングジョッキーボードをポラリスドーム内に設置した。

ウ 誘導馬テン太とのふれあいイベントの実施

レースが始まる前の時間帯を利用して、誘導馬テン太との写真撮影など、ファンとテン太とのふれあいの場を提供した。

エ 地域吹奏学部によりファンファーレ演奏

特異日において、静内高校吹奏楽部によるファンファーレ演奏を実施した。

静内高校吹奏楽部 ブリーダーズゴールドカップ（ 8月11日）
道営記念（11月10日）

オ イベント広場の活用

来場者の利便性の向上とファンサービスの充実を図ることから、とねっこデッキのサッシ取付けなど、とねっこ広場の改修や補修を行った。

また、北海道の四季に合わせた春・夏・秋のケイバまつりを実施するとともに、「ひだか特産市」など地元食材や観光PRを合わせて実施することにより、日高管内及び門別競馬場のPRに努めた。

・春のケイバまつり

リボンちゃんゲーム大会・大道芸パフォーマンスなど

・北海道コンサドーレ札幌DAY

吉原宏太によるジュニアサッカー教室など

・秋のケイバまつり

STVラジオ公開生放送「まるごと！エンタメーション」

そば打ち体験教室など

カ 道外新聞への馬柱掲載の充実

発売額が好調に推移しているインターネット及び電話投票の発売拡大策を図るため、札幌馬主協会様等からのご支援により、関東・東海・関西エリアのスポーツ新聞に馬柱掲載を行った。

（サンケイスポーツ、日刊スポーツ、スポーツニッポン、スポーツ報知、

東京スポーツ、中京スポーツ、大阪スポーツ、九州スポーツ 8紙2レース掲載）

また、週刊競馬ブックでの重賞競走馬柱掲載やブックオンライン（ホームページ）から重賞予想データ無料ダウンロードを実施した。

キ SPAT4との連携

南関東電話投票（SPAT4）との連携により、会員へのメール配信・ホッカイドウ競馬情報の郵送・動画配信やプレミアムポイントキャンペーンの実施により発売拡大を図った。

ク 札幌からの無料送迎バス運行

開催日（80日間）に札幌駅北口から門別競馬場までの無料送迎バスを毎日運行し、札幌圏から門別競馬場への来場促進を図るとともに、来場者が多く見込まれる“ケイバまつり”等には臨時便を運行するなど、効果的な集客策に努めた。

・総乗車数 延べ2,430名（対前年比 94.9%）

（8）北海道著名企業とのコラボレーション

北海道を代表する企業とのコラボレーションをより一層図り、「MADE IN HOKKAIDO KEIBA」をスローガンに、オール北海道として様々なイベントを実施し、ホッカイドウ競馬により親しめるよう、著名企業とのタイアップを積極的に推進した。

AIRDO サンクスデー・北海道コンサドーレ札幌DAY・ホクレンDAYなど、各企業の冠競走に合わせて、コラボイベントを実施した。

（9）門別競馬場を活用した馬産地の活性化（公益目的実施事業）

法人移行に合わせて公益目的実施事業として、軽種馬生産の振興と馬産地の活性化に資するための各種イベントを実施した。

・シュエット・ジュマン・フェスティバル（ポニー体験乗馬ほか）

（10）門別競馬場団体来場者の誘致

旅行代理店が運営している日高バスツアー行程の一つとして、門別競馬場を提供し、団体客の来場促進を図り、門別競馬場の認知度向上に努めた。

・団体来場者数 118団体 2,749名（27年度 67団体 2,249名）

附属明細書

平成28年度事業報告には、「一般社団法人及び一般社団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。